

# 平成27年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	茨城県		市町村類型	II-2		指定団体等の指定状況		区分		平成27年度(千円)	平成26年度(千円)	区分		平成27年度(千円・%)	平成26年度(千円・%)		
						財政健全化等	×	歳入総額	18,557,218			17,961,678	実質収支比率			8.6	8.3
市町村名	結城市		地方交付税種地	1-3		財源超過	×	歳出総額	17,616,344	17,037,664	経常収支比率	94.1	93.6				
						首都	○	歳入歳出差引	940,874	924,014	(※1)	(101.9)	(102.4)				
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	24,489	57,278	標準財政規模	10,599,217	10,479,794				
						中部	×	実質収支	916,385	866,736	財政力指数	0.70	0.70				
人口	27年国調(人)	51,594	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	49,649	-469,724	公債費負担比率	13.7	14.0					
	22年国調(人)	52,494			過疎	×	積立金	1,045	231,014	健全化判断比率							
	増減率(%)	-1.7			山振	×	繰上償還金	-	-	実質赤字比率	-	-					
住民基本台帳人口(※7)	28.01.01(人)	52,598	第1次	22年国調	2,026	17年国調	2,411	低開発	×	積立金取崩し額	46,854						
	うち日本人(人)	50,769							指数表選定	○	実質単年度収支	3,840	-238,710				
	27.01.01(人)	52,830	第2次		7.9		8.8			基準財政収入額	5,788,180	5,594,300	資金不足比率(※4)				
	うち日本人(人)	51,116				9.764		10.383			基準財政需要額	8,222,314	7,976,746				
	増減率(%)	-0.4				38.2		37.9			標準税収入額等	7,340,102	7,178,587				
	うち日本人(人)	-0.7		第3次		13.801		14.506			経常経費充当一般財源等	10,172,356	10,041,045				
面積(km <sup>2</sup> )	65.76		53.9			52.9			歳入一般財源等	12,917,421	12,996,649						
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	785																
世帯数(世帯)	18,267																
職員の状況																	
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	15,330,068	15,417,702	うち公的資金	11,795,050	11,648,129			
	市区町村長	1	8,550		一般職員	312	945,984	3,032	債務負担行為額(支出予定額)	2,227,792	1,735,573						
	副市区町村長	1	6,800		うち消防職員	-	-	-	収益事業収入	-	-						
	教育長	1	6,400		うち技能労務職員	3	9,840	3,280	土地開発基金現在高	-	-						
	議会議長	1	4,180		教育公務員	6	19,310	3,218	財政調整基金	1,789,107	1,834,916						
	議会副議長	1	3,750		臨時職員	-	-	-	減債基金	510,999	641,639						
	議会議員	17	3,610		合計	318	965,294	3,036	その他特定目的基金	2,114,603	2,126,785						
					ラスバイレ指数				96.8								
	一般会計等の一覧																
	項番	会計名	事業会計の一覧		項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	項番
(1)	一般会計	(4)	国民健康保険特別会計	(8)	水道事業会計	(9)	公共下水道事業特別会計	(14)	茨城県市町村総合事務組合(一般会計)	(21)	結城市文化・スポーツ振興事業団						
(2)	公共用地先行取得事業特別会計	(5)	介護保険特別会計(介護保険事業勘定)	(10)	農業集落排水事業特別会計	(15)	茨城県市町村総合事務組合(県民交通災害共済事業特別会計)	(22)	結城市土地開発公社								
(3)	住宅資金等貸付事業特別会計	(6)	介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)	(11)	下館・結城市計画事業結城南部第二土地区画整理事業特別会計	(16)	茨城県租税債権管理機構(一般会計)	(23)	TMO結城								
		(7)	後期高齢者医療特別会計	(12)	下館・結城市計画事業結城南部第三土地区画整理事業特別会計	(17)	茨城県後期高齢者医療広域連合(一般会計)										
				(13)	下館・結城市計画事業結城南部第四土地区画整理事業特別会計	(18)	茨城県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)										
						(19)	筑西広域市町村圏事務組合(一般会計)										
						(20)	筑西広域市町村圏事務組合(筑西ふるさと市町村圏特別会計)										

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。  
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※7: 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。

## (1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				歳出の状況(単位:千円・%)						
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	目的別歳出の状況(単位:千円・%)	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
地方税	6,605,319	35.6	6,270,311	62.8	普通税	6,270,311	94.9	120,824	議会費	198,992	1.1	1,739	198,992	
地方譲与税	209,281	1.1	209,281	2.1	法定普通税	6,270,311	94.9	120,824	総務費	1,837,568	10.4	58,206	1,624,767	
利子割交付金	8,838	0.0	8,838	0.1	市町村民税	3,009,335	45.6	120,824	民生費	6,615,156	37.6	409,326	2,994,015	
配当割交付金	33,342	0.2	33,342	0.3	個人均等割	89,749	1.4	-	衛生費	1,213,313	6.9	26,276	1,159,809	
株式等譲渡所得割交付金	32,482	0.2	32,482	0.3	所得割	2,235,360	33.8	-	労働費	2,613	0.0	-	2,393	
地方消費税交付金	895,442	4.8	895,442	9.0	法人均等割	185,630	2.8	30,890	農林水産業費	610,664	3.5	169,578	383,810	
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	法人税割	498,596	7.5	89,934	商工費	377,461	2.1	11,572	355,432	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	2,706,673	41.0	-	土木費	1,907,094	10.8	765,695	1,476,601	
自動車取得税交付金	38,108	0.2	38,108	0.4	うち純固定資産税	2,701,170	40.9	-	消防費	834,157	4.7	176,710	647,944	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	109,246	1.7	-	教育費	2,133,767	12.1	647,908	1,334,760	
地方特例交付金	33,992	0.2	33,992	0.3	市町村たばこ税	445,057	6.7	-	災害復旧費	43,651	0.2	-	31,240	
地方交付税	2,857,471	15.4	2,434,134	24.4	釧産税	-	-	-	公債費	1,841,908	10.5	-	1,767,058	
普通交付税	2,434,134	13.1	2,434,134	24.4	特別土地保有税	-	-	-	諸支出金	-	-	-	-	
特別交付税	393,674	2.1	-	-	法定外普通税	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	
震災復興特別交付税	29,663	0.2	-	-	目的税	335,008	5.1	-	歳出合計	17,616,344	100.0	2,267,010	11,976,821	
(一般財源計)	10,714,275	57.7	9,955,930	99.7	法定目的税	335,008	5.1	-	性質別歳出の状況(単位:千円・%)					
交通安全対策特別交付金	6,583	0.0	6,583	0.1	入湯税	-	-	-	区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
分担金・負担金	266,760	1.4	-	-	事業所税	-	-	-	義務的経費計	8,336,609	47.3	5,379,108	5,354,198	49.5
使用料	141,621	0.8	16,420	0.2	都市計画税	335,008	5.1	-	人件費	2,614,133	14.8	2,472,621	2,458,120	22.7
手数料	31,691	0.2	-	-	水利地益税等	-	-	-	うち職員給	1,641,465	9.3	1,529,856	-	-
国庫支出金	2,618,686	14.1	-	-	法定外目的税	-	-	-	扶助費	3,880,570	22.0	1,139,431	1,129,022	10.4
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	公債費	1,841,906	10.5	1,767,056	1,767,056	16.3
都道府県支出金	1,474,748	7.9	-	-	合計	6,605,319	100.0	120,824	元利償還金	1,841,385	10.5	1,766,535	1,766,535	16.3
財産収入	72,878	0.4	2,896	0.0	区分				平成27年度	平成26年度				
寄附金	1,117	0.0	-	-	徴収率(%)	現・計	年	市町村民税	99.0	96.7	99.0	96.3		
繰入金	254,702	1.4	-	-	純固定資産税	98.9	96.0	98.9	96.7	99.0	96.5			
繰越金	924,014	5.0	-	-	公営事業等への繰出				国民健康保険事業会計の状況					
諸収入	467,643	2.5	4,227	0.0	合計	2,143,987	-	274,646	実質収支	2,301,067	13.1	1,742,753	1,466,010	13.6
地方債	1,582,500	8.5	-	-	下水道	533,658	-	228,579	再差引収支	94,229	0.5	82,267	82,047	0.8
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	宅地造成	49,954	-	8,822	加入世帯数(世帯)	2,358,203	13.4	2,168,103	1,659,370	15.3
うち臨時財政対策債	824,900	4.4	-	-	上水道	7,483	-	16,398	被保険者数(人)	1,335,150	7.6	1,335,150	1,335,150	12.3
歳入合計	18,557,218	100.0	9,986,056	100.0	工業用水道	-	-	101	被保険者	2,136,504	12.1	1,863,949	1,610,731	14.9
					国民健康保険	515,922	-	102	1人当り	66,071	0.4	57,118	-	-
					その他	1,036,970	-	233	保険料(料)収入額	13,000	0.1	-	-	-
									国庫支出金	-	-	-	-	-
									保険給付費	-	-	-	-	-
									前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
									投資的経費計	2,310,661	13.1	683,523	-	-
									うち人件費	123,418	0.7	123,418	-	-
									普通建設事業費	2,267,010	12.9	652,283	-	-
									うち補助	1,163,200	6.6	64,145	-	-
									うち単独	1,076,293	6.1	585,121	-	-
									災害復旧事業費	43,651	0.2	31,240	-	-
									失業対策事業費	-	-	-	-	-
									歳出合計	17,616,344	100.0	11,976,821	-	-

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成27年度 茨城県結城市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	18,529	17,588	941	916	-	14,019	
2 公共用地先行取得事業特別会計	13	13	-	-	13	32	
3 住宅資金等貸付事業特別会計	4	4	0	0	2	9	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297	</						

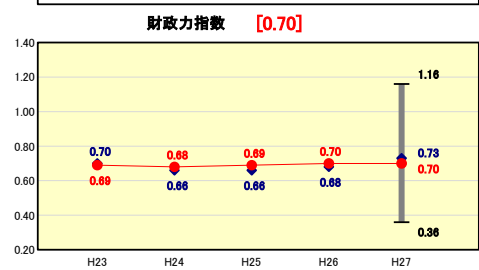
### (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	52,598人	(H28.1.1現在)			
うち日本人	50,769人	(H28.1.1現在)			
面積	65.76	km <sup>2</sup>			
歳入総額	18,557,218	千円	実質赤字比率	-	%
歳出総額	17,616,344	千円	連結実質赤字比率	-	%
実質収支	916,385	千円	実質公債費比率	10.8	%
標準財政規模	10,599,217	千円	将来負担比率	37.2	%
地方債現在高	15,330,068	千円	市町村類型	H23 II-O H24 II-O H25 II-O	
			(年度毎)	H26 II-O H27 II-2	



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表示しない。  
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表示しない。  
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
 ※住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。  
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

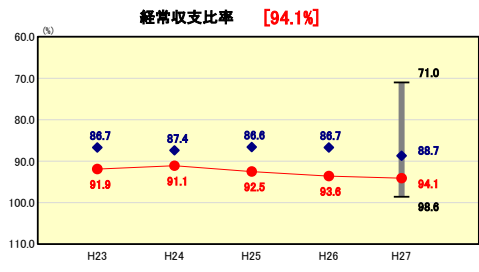
#### 財政力



**財政力指数の分析欄**

長引く景気低迷による市税の減収等により、類似団体平均を下回る値となったが、前年度と比較すると、基準財政需要額及び基準財政収入額ともに増となった。単年度の指数は0.003ポイント上昇したが、3か年の平均であるため指数は横ばいとなっている。  
 今後は、平成25年度に策定した「第4次結城市行政改革大綱」に基づき、自主財源の確保と経費節減合理化に取り組む。

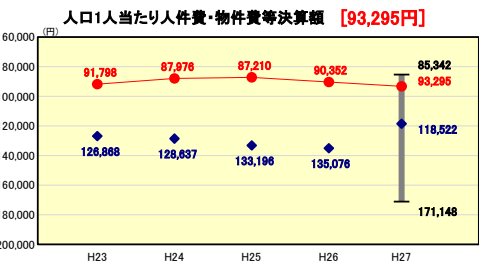
#### 財政構造の弾力性



**経常収支比率の分析欄**

平成26年度決算と比較し、歳入においては市税が約233百万円減少し、経常一般財源が減少したことに加え、歳出においても扶助費の増となり、比率は0.5ポイント上昇し、県平均・全国平均・類似団体平均を上回る値となっている。  
 今後は「第4次結城市行政改革大綱」に基づき、組織・機構の見直しや使用料・手数料の見直し、公営企業の経営健全化を図り、財政健全化に努める。

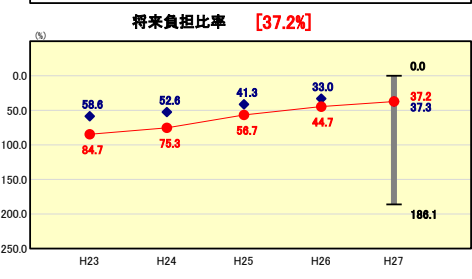
#### 人件費・物件費等の状況



**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄**

全国及び茨城県の平均値を下回っており、類似団体内でもほぼ最低に近い。その事由としては人件費を要因とするところが大きく、少ない職員数で事務を効率的に行うことにより人件費の抑制を図っている。物件費については、行政改革を進めることにより管理事務経費の縮減を図るものとし、平成25年度に策定した「第4次結城市行政改革大綱」に基づき、継続して数値の抑制に努める。

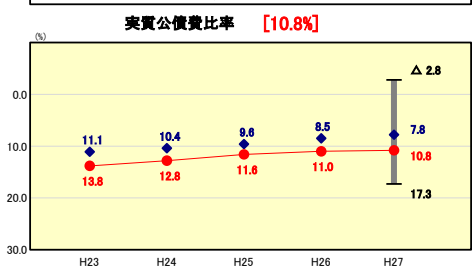
#### 将来負担の状況



**将来負担比率の分析欄**

筑西広域市町村圏事務組合への組合負担等見込額の減及び一般職分の退職手当負担見込額の減、土地区画整理組合の借入金償還費助成金の支出予定額の減により7.5ポイント低下という改善がみられた。  
 それに伴い、類似団体平均を下回る値となったが、依然として県平均を上回っている状態である。今後も大規模事業を必要最小限に抑え、歳出削減や起債発行額抑制に努め、財政健全化を図る。

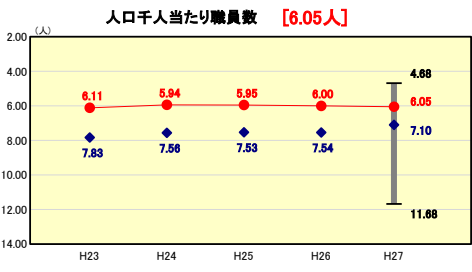
#### 公債費負担の状況



**実質公債費比率の分析欄**

前年度と比べて0.2ポイント、単年度比率で見ると約0.4ポイント低下しているが、依然として類似団体平均を上回っている。低下した理由としては、公債費の元利償還金が約53百万円減、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等が約53百万円減により、分子となる額が減少した一方、地方消費税交付金の増に伴う標準収入額等の増により、標準財政規模が約119百万円増となったことにより、分母となる額が増加したことが主な要因である。平成19年度策定の公債費負担適正化計画に基づき、地方債残高は計画的に減少してきており、今後も新規事業や既存事業への起債発行額の抑制を図る。

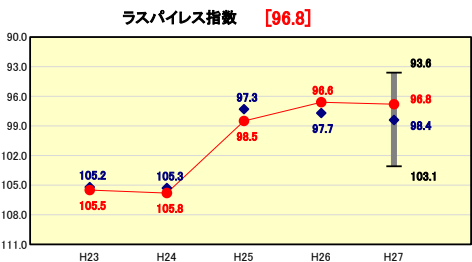
#### 定員管理の状況



**人口千人当たり職員数の分析欄**

年来退職者数に対して採用人員数を抑制してきた結果、全国及び茨城県平均と比較しても職員数は少ない状況であり、類似団体内でも平均を大きく下回る。平成17年策定の「結城市行政改革集中改革プラン」に基づいて人員削減を進め、平成17年4月1日の職員総数408人から平成22年4月1日の職員数を374人とし、平成21年度の計画終期において34名の削減により目標を達成した。  
 今後は、平成25年度に策定した「第4次結城市行政改革大綱」及び平成27年度に策定した「結城市定員管理計画」において、適正な人員の検討を行った上で定員管理に努めていく。

#### 給与水準 (国との比較)



**ラスパイルズ指数の分析欄**

平成18年度の給料表見直し以降、ラスパイルズ指数は減少傾向にある。平成27年度においては、前年度から0.2ポイント上昇し96.8となったが、類似団体平均及び全国市平均を下回る状況である。  
 今後は、人事評価制度の本格的導入により、職員の勤務実績を給与等に適切に反映し、給与水準の適正化を進める。

# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成27年度

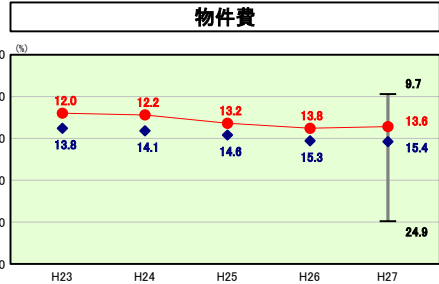
茨城県結城市

## 経常収支比率の分析

人口	52,598	人(H28.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	50,769	人(H28.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	65.76	km <sup>2</sup>	実収公債費比率	10.8	%
歳入総額	18,557,218	千円	得米負担比率	37.2	%
歳出総額	17,616,344	千円	市町村類型	H23 II-O H24 II-O H25 II-O	
実収支	916,385	千円	(年度毎)	H26 II-O H27 II-2	
標準財政規模	10,599,217	千円			

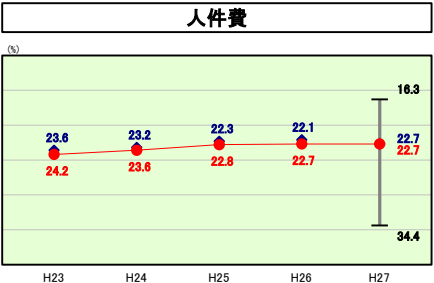


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



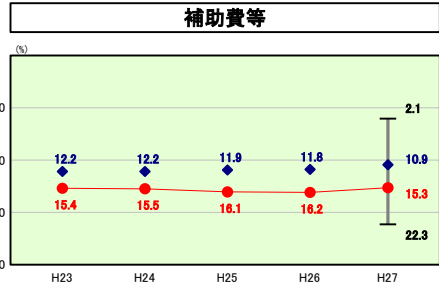
類似団体内順位 27/90 全国平均 14.3 茨城県平均 14.8

**物件費の分析欄**  
 市民情報センター等の指定管理者への施設管理委託料増加のため上昇傾向にあったが、公立保育所の雇用形態の見直しにより賃金が減少し、前年度から0.2ポイント低下した。今後も単独事業等の縮減や、行政改革の推進により委託事業等を見直し、比率の悪化を招かめよう経費削減を図っていく。



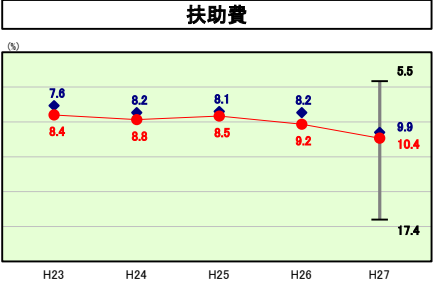
類似団体内順位 49/90 全国平均 23.3 茨城県平均 24.7

**人件費の分析欄**  
 平成27年度においては、類似団体平均値と同じ値であり、全国及び茨城県の平均値を下回っている。職員数については「結城市行政改革集中改革プラン」に基づいて人員削減を進め、平成21年度の計画終期において目標を達成したところであり、人口千人当たりの職員数を類似団体内で比較しても少ない状況である。目標値であった現水準を維持しつつ、平成25年度に策定した「第4次結城市行政改革大綱」及び平成27年度に策定した「結城市定員管理計画」に基づき、事務事業の見直しを進め、引き続き人件費の抑制に努めていく。



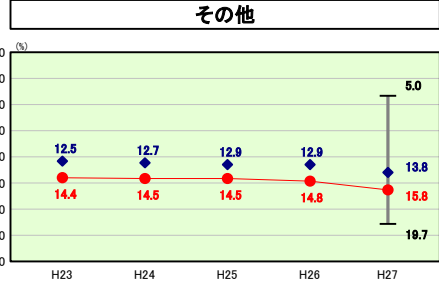
類似団体内順位 77/90 全国平均 10.0 茨城県平均 9.6

**補助費等の分析欄**  
 前年度から0.9ポイント低下したが、依然として類似団体平均を上回っている。一部事務組合の元利償還金等に対する分賦金が多額であることが類似団体平均を上回っている要因であるといえるため、今後も一部事務組合の運営に注視していく。



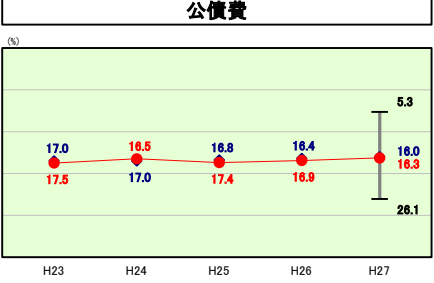
類似団体内順位 48/90 全国平均 11.8 茨城県平均 9.5

**扶助費の分析欄**  
 扶助費に係る経常収支比率においては、前年度と比較して1.2ポイント上昇し、依然として類似団体平均を上回っている。その要因として、児童福祉費や生活保護費が増加傾向にあることが考えられる。今後も国の制度改正等に適切に対応し、資格審査等の適正化を進め適正な執行に努めていく。



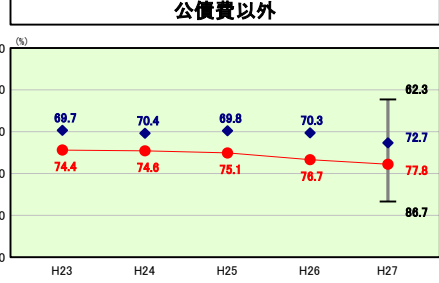
類似団体内順位 64/90 全国平均 13.2 茨城県平均 14.6

**その他の分析欄**  
 前年度から1.0ポイント上昇し、依然として類似団体平均を上回っている。介護保険特別会計や公共下水道事業特別会計への繰入金が多額となっていることが要因であると考えられるため、介護保険料及び下水道使用料の適正化や起債発行額の抑制を図り、普通会計の負担軽減に努める。



類似団体内順位 49/90 全国平均 17.4 茨城県平均 14.4

**公債費の分析欄**  
 今年度は平成5年度臨時地方道事業債及び平成8年度減税補てん債の償還終了により、前年度より0.6ポイント低下したが、依然として類似団体の平均値を上回っている。建設に伴う公債費は減少傾向であるが、臨時財政対策債は今後も増加傾向にあり、公債費は横ばいで推移していくことが見込まれるため、公債費負担の適正化を進め、起債発行額の抑制を図っていく。



類似団体内順位 70/90 全国平均 72.6 茨城県平均 73.2

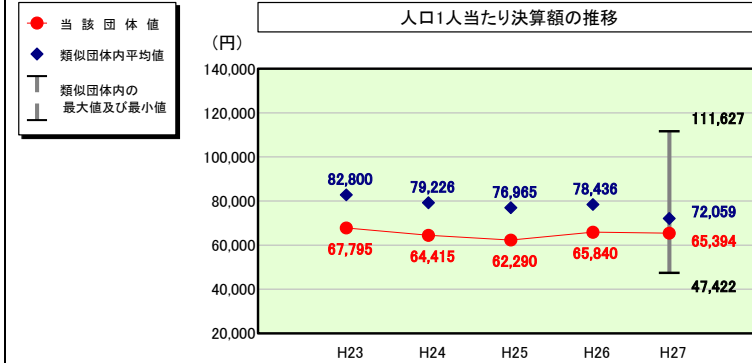
**公債費以外の分析欄**  
 例年公債費以外の経常収支比率は類似団体平均と比較しても高く、その要因として特別会計への繰入金が多額となっていることが考えられる。特に土地区画整理事業や下水道事業への繰入金は実質公債費比率にも影響してくるため、今後も安易な繰入を抑制し、事業の見直しや適正化に努める。

# (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成27年度

茨城県結城市

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



(注) 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

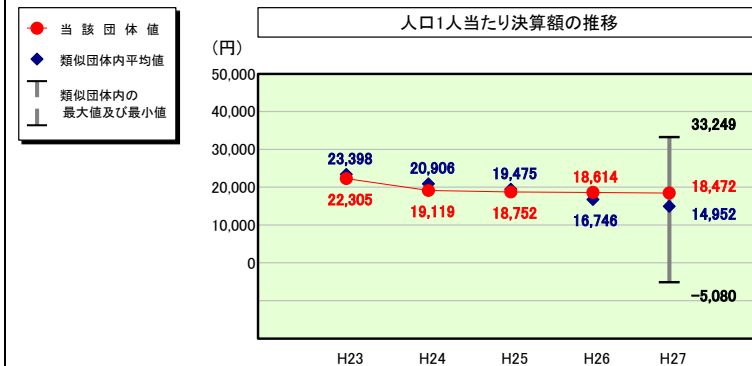
## 人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	2,614,133	49,700	62,416	▲20.4
賃金(物件費)	85,543	1,626	5,506	▲70.5
一部事務組合負担金(補助費等)	609,682	11,591	5,414	114.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,117	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	0	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	232,509	4,420	2,298	92.3
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	123,418	2,346	1,592	47.4
▲退職金	▲225,698	▲4,291	▲6,284	▲31.7
合計	3,439,587	65,394	72,059	▲9.2

## 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.05	7.10	▲1.05
ラスパイレス指数	96.8	98.4	▲1.6

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

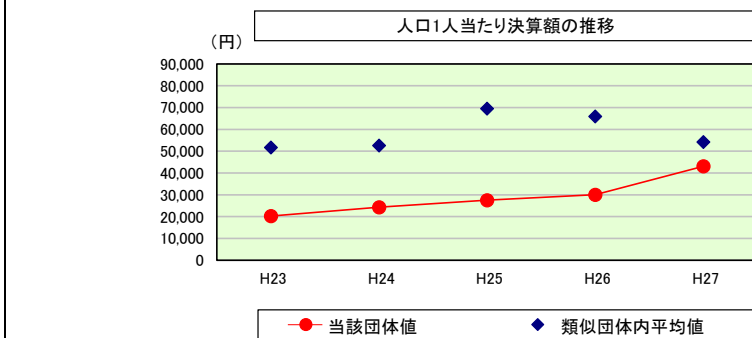


## 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	1,562,402	29,705	39,864	▲25.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	3	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	4,000	76	79	▲3.8
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	812,622	15,450	14,090	9.7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	268,932	5,113	1,791	185.5
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	124,143	2,360	866	172.5
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	521	10	3	233.3
▲特定財源の額	▲372,297	▲7,078	▲5,541	27.7
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲1,428,727	▲27,163	▲36,202	▲25.0
合計	971,596	18,472	14,952	23.5

※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (参考) 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H23	1,048,853	20,275	▲50.0	51,704	▲22.7	▲27.3
うち単独分	410,135	7,928	▲62.8	26,896	▲25.9	▲36.9
H24	1,291,364	24,367	20.2	52,678	1.9	18.3
うち単独分	392,148	7,399	▲6.7	30,185	12.2	▲18.9
H25	1,457,284	27,519	12.9	69,560	32.0	▲19.1
うち単独分	561,424	10,602	43.3	35,305	17.0	26.3
H26	1,589,922	30,095	9.4	65,988	▲5.1	14.5
うち単独分	925,357	17,516	65.2	36,473	3.3	61.9
H27	2,267,010	43,101	43.2	54,227	▲17.8	61.0
うち単独分	1,076,293	20,463	16.8	29,694	▲18.6	35.4
過去5年間平均	1,530,887	29,071	7.1	58,831	▲2.3	9.4
うち単独分	673,071	12,782	11.2	31,711	▲2.4	13.6

# (5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

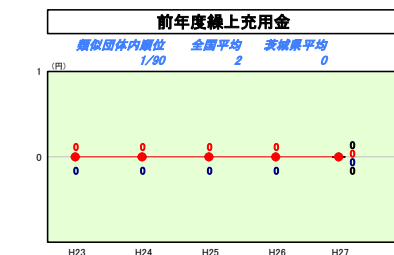
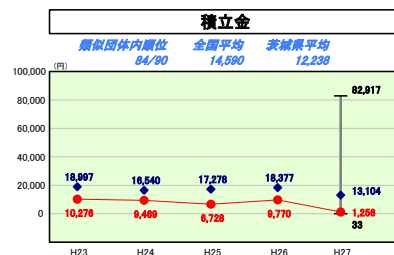
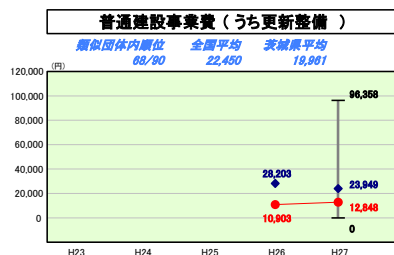
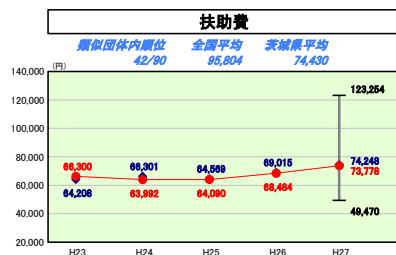
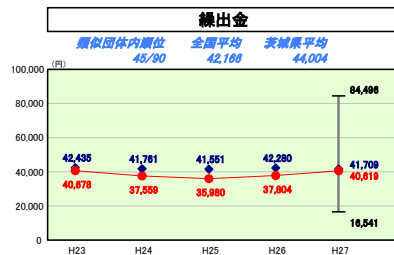
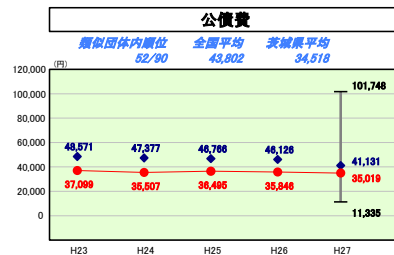
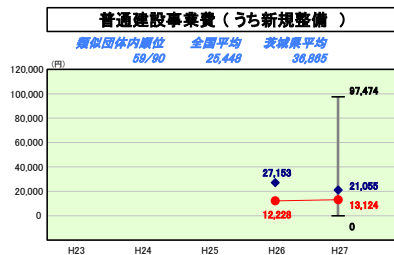
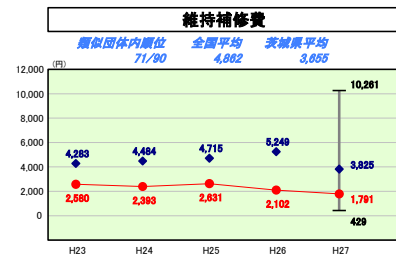
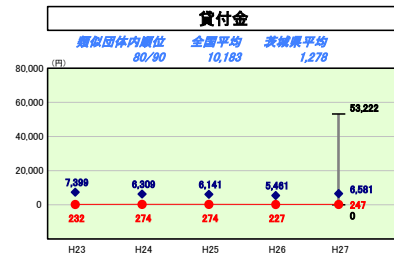
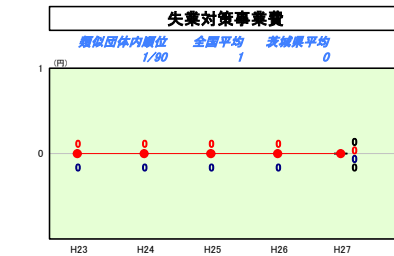
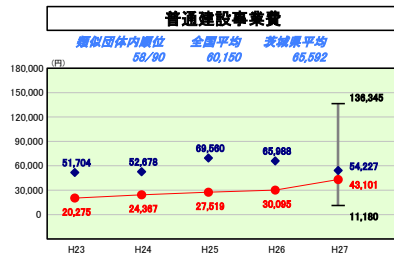
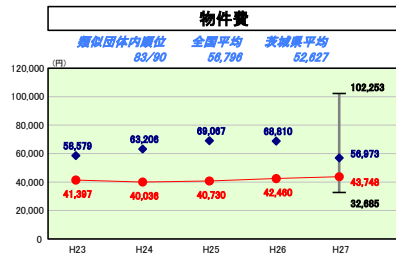
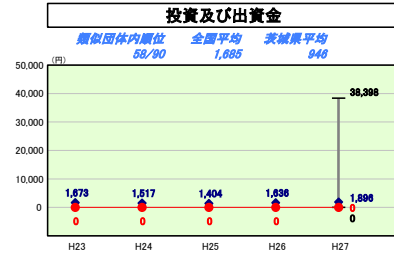
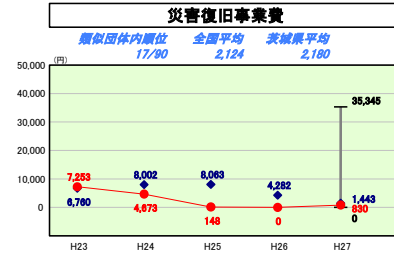
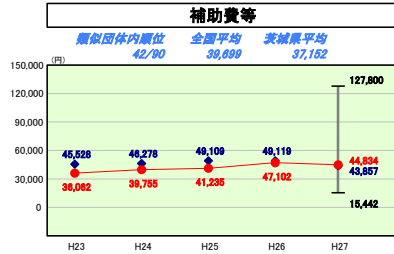
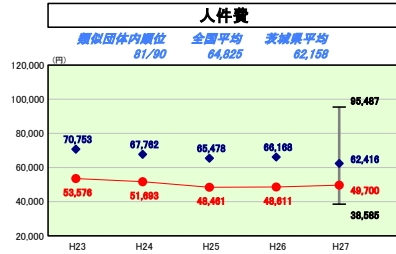
平成27年度

茨城県結城市

人口	52,598	人(28.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	50,789	人(28.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
面積	55.76	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	10.8	%
歳入総額	18,557,218	千円	将来負担比率	37.2	%
歳出総額	17,616,344	千円	市町村類型	H23 II-O H24 II-O H25 II-O	
実質収支	916,385	千円	(年度毎)	H26 II-O H27 II-2	
標準財政規模	10,589,217	千円			
地方債現在高	15,330,068	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



#### 性質別歳出の分析

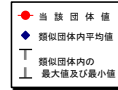
- ・歳出決算総額は、住民一人当たり334,924円となっている。主な構成項目である人件費は、住民一人当たり49,700円となっており、全国・県・類似団体平均を大きく下回っている。これは、人口千人数当たりの職員やラスパイレス指数(給与水準)が全国・県・類似団体平均を下回っていることが主な要因である。
- ・普通建設事業費は住民一人当たり143,101円となっており、類似団体平均が平成26年度と比較して17.8%増加している。結城市では43.2%増加している。これは、民間保育施設整備事業や中学校施設耐震化推進事業の実施が主な要因である。
- ・公債費は住民一人当たり35,019円となっており、類似団体平均を下回っている。建設に伴う公債費は減少傾向であるが、臨時財政対策債は今後も増加傾向にあり、公債費は横ばいで推移していくことが見込まれる。

# (6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

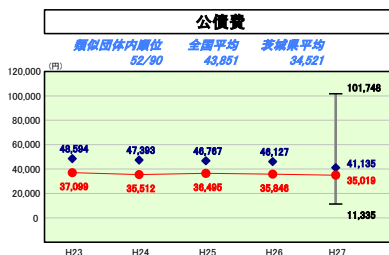
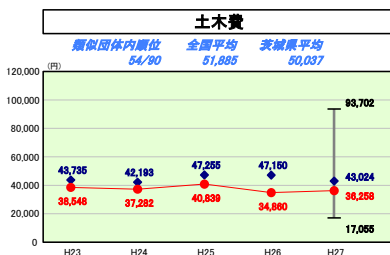
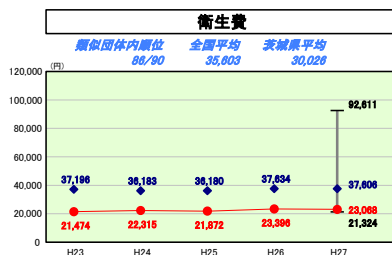
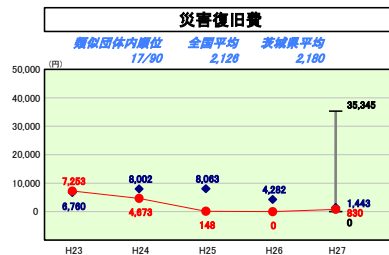
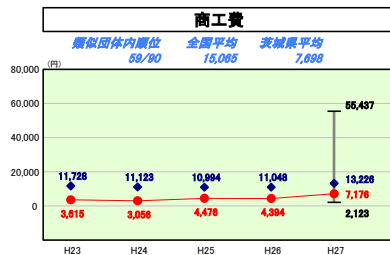
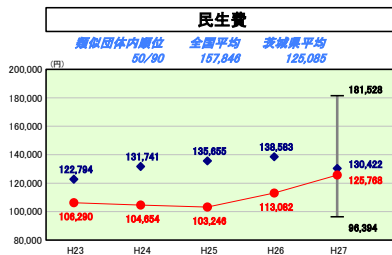
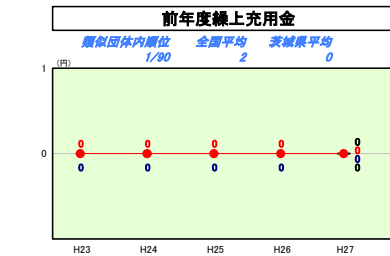
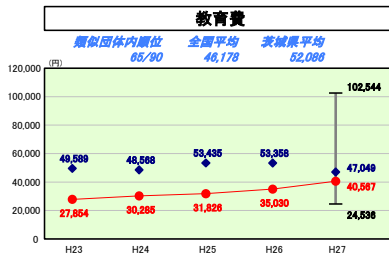
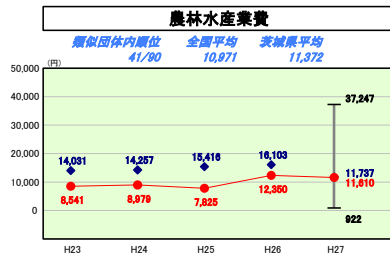
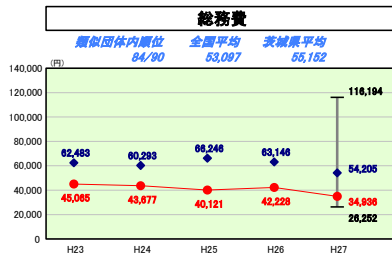
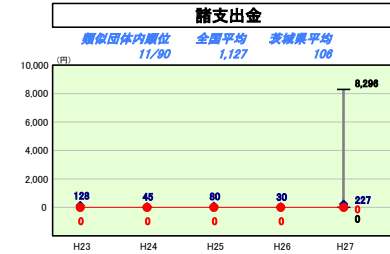
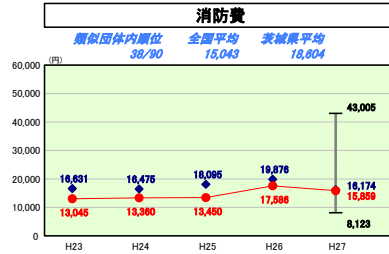
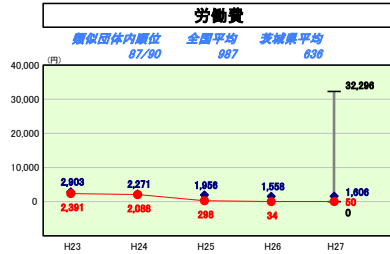
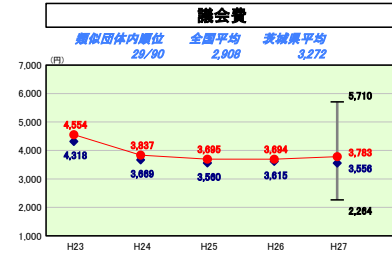
平成27年度

茨城県結城市

人口	52,598人 (H28.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	50,769人 (H28.1.1現在)	通算実質赤字比率	-%
面積	65.76km <sup>2</sup>	実質公債費比率	10.8%
歳入総額	18,557,218千円	将来負担比率	37.2%
歳出総額	17,616,344千円	市町村類型	H23 II-O H24 II-O H25 II-O
実質収支	916,385千円	(年度毎)	H26 II-O H27 II-2
標準財政規模	10,589,217千円		
地方債現在高	15,330,068千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



#### 目的別歳出の分析

・民生費は、住民一人当たり125,768円となっており、類似団体平均が平成26年度と比較して5.8%減少しているところ、結城市では11.2%増加している。これは民間保育所施設整備事業や児童クラブ室整備事業などの子育て環境の充実を図るために重点的に取り組んだことによるものである。  
 ・教育費は、住民一人当たり40,567円となっており、類似団体平均が平成26年度と比較して11.8%減少しているところ、結城市では15.8%増加している。これは、平成21年度から実施している市内小中学校の耐震化推進事業によるものであり、平成27年度の大規模校の耐震化工事を実施したことが主な要因である。

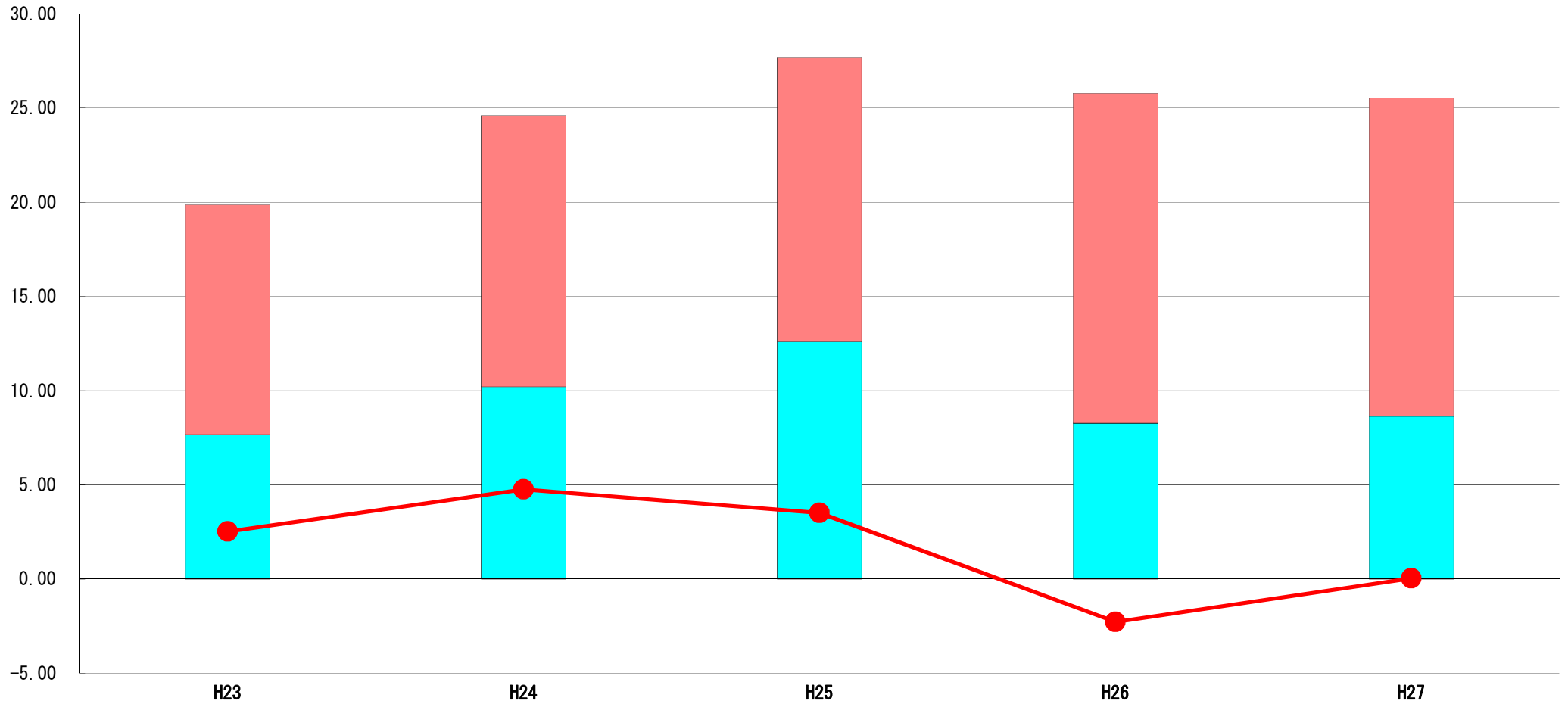


# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成27年度

茨城県結城市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H23	H24	H25	H26	H27
 財政調整基金残高		12.21	14.40	15.11	17.51	16.88
 実質収支額		7.66	10.20	12.59	8.27	8.65
 実質単年度収支		2.52	4.76	3.51	▲ 2.28	0.04

## 分析欄

財政調整基金残高については、市税等の減収により、前年度と比較し約46百万円の減となり、前年度比0.63ポイント減の16.88%となった。

また、実質収支については、歳入・歳出ともに増となったが、歳入の増が歳出の増をわずかに上回ったことにより、前年度比0.38ポイント増の8.65%、実質単年度収支は財政調整基金積立金が昨年度に比べ約230百万円減少したが、前年度の単年度収支がマイナスであったこともあり、2.32ポイント増の0.04%となった。

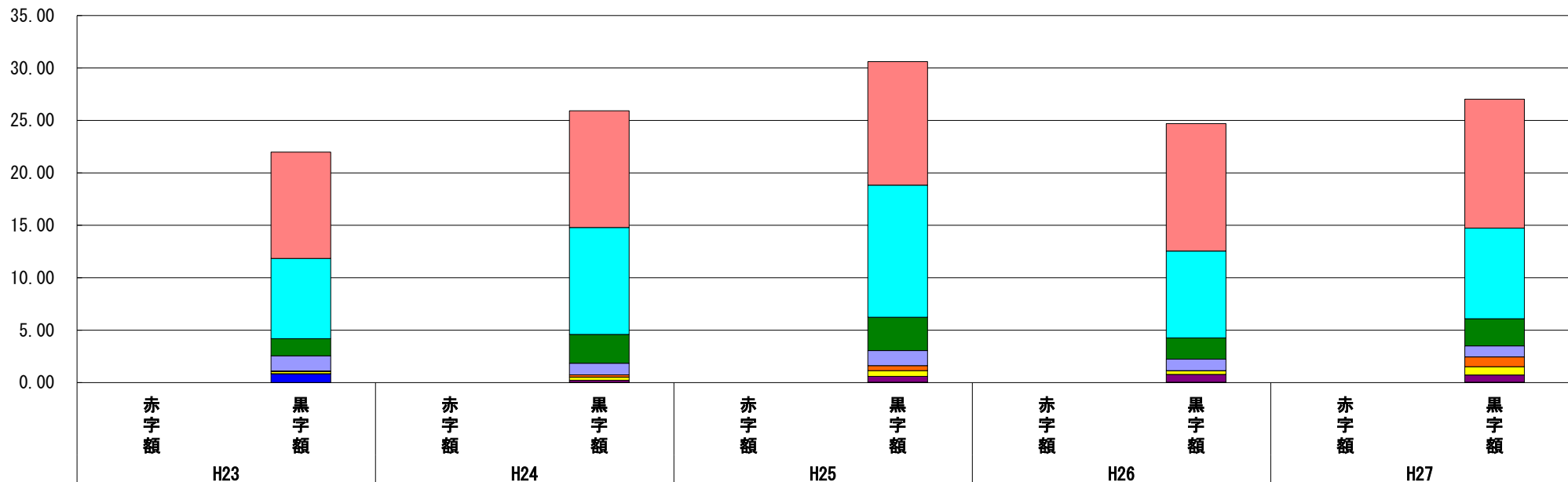
平成27年度は軽自動車税を除く全ての税目が減となり、特に法人市民税が前年度比約125百万円と大幅な減となった。引き続き地方税の徴収強化による歳入確保に加え、企業会計等の健全化による補助費等の抑制、人件費削減等の継続など、行財政改革の取り組みによる歳出の削減を推進し、健全な財政運営を行う。

### (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成27年度

茨城県結城市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H23	H24	H25	H26	H27
水道事業会計		10.14	11.13	11.77	12.15	12.30
一般会計		7.65	10.20	12.59	8.27	8.64
国民健康保険特別会計		1.64	2.74	3.18	2.04	2.59
下館・結城都市計画事業結城南部第三土地区画整理事業特別会計		1.43	1.11	1.44	1.08	1.05
介護保険特別会計（介護保険事業勘定）		0.07	0.22	0.47	0.03	0.94
下館・結城都市計画事業結城南部第二土地区画整理事業特別会計		0.20	0.30	0.56	0.33	0.78
下館・結城都市計画事業結城南部第四土地区画整理事業特別会計		0.00	0.20	0.55	0.76	0.69
介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）		0.01	0.01	0.03	0.02	0.03
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.84	0.01	0.01	0.01	0.01

#### 分析欄

平成26年度に引き続き、実質収支が赤字の会計や資金不足となる会計はなかった。そのため、連結実質赤字比率は算定されなかった。  
 標準財政規模に対する実質収支額及び資金余剰額の合計の比率は、一般会計において実質収支が約50百万円の増(0.37ポイント増)、国民健康保険特別会計においては約61百万円の増(0.55ポイント増)、介護保険特別会計では、約97百万円の増(0.92ポイント増)により、全会計合計では2.35ポイント増の27.07%となった。

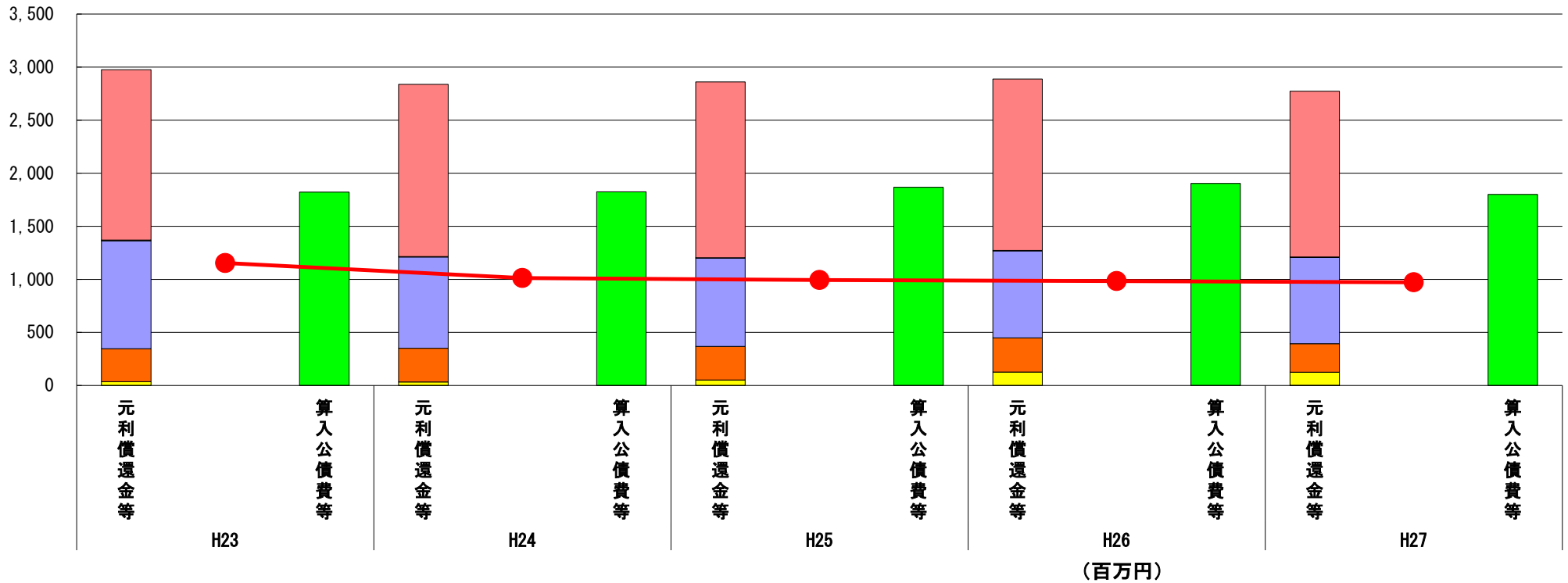
※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成27年度

茨城県結城市

(百万円)



分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,605	1,623	1,658	1,615	1,562
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		7	4	4	4	4
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,018	860	831	820	813
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		310	318	317	322	269
	債務負担行為に基づく支出額		36	33	51	127	124
	一時借入金の利子		-	-	-	-	1
算入公債費等 (B)	算入公債費等		1,822	1,825	1,868	1,904	1,801
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,154	1,013	993	984	972

**分析欄**

平成27年度単年度の実質公債費比率は、平成26年度単年度の比率に対し、約0.4ポイント減少している。これは、公債費の元利償還金が約53百万円減、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等が約53百万円減により、分子となる額が減少した一方、地方消費税交付金の増に伴う標準税収入額等の増により、標準財政規模が約119百万円増となったことにより、分母となる額が増加したことが主な要因である。

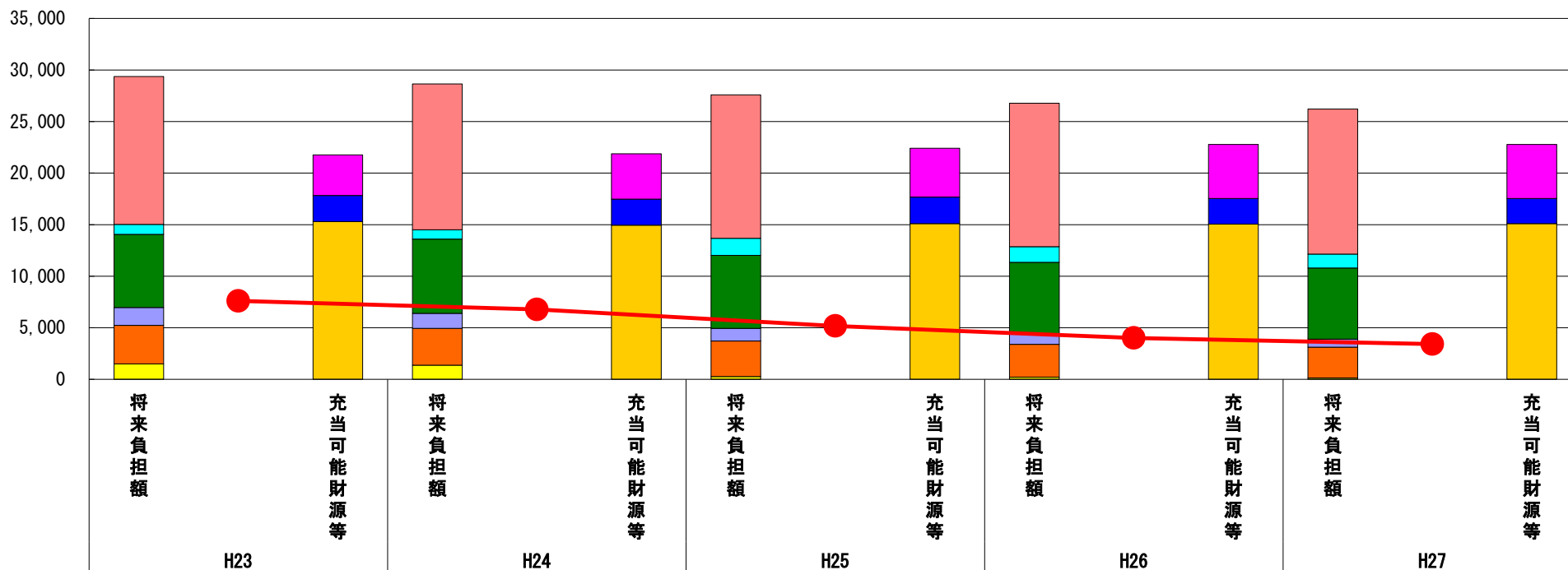
※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成27年度

茨城県結城市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		14,347	14,148	13,917	13,921	14,061
	債務負担行為に基づく支出予定額		963	899	1,650	1,521	1,350
	公営企業債等繰入見込額		7,096	7,204	7,085	6,963	6,890
	組合等負担等見込額		1,723	1,456	1,225	977	778
	退職手当負担見込額		3,749	3,569	3,440	3,200	2,990
	設立法人等の負債額等負担見込額		1,488	1,374	270	200	135
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,934	4,395	4,735	5,242	5,240
	充当可能特定歳入		2,524	2,530	2,569	2,480	2,438
	基準財政需要額算入見込額		15,302	14,953	15,104	15,051	15,106
(A) - (B)	将来負担比率の分子		7,605	6,773	5,178	4,009	3,419

## 分析欄

平成27年度決算では、平成26年度の44.7%に対し7.5ポイント減の37.2%となった。

将来負担額の各算定項目の主な増減は以下のとおりである。

退職手当負担見込額は、一般職分の退職手当支給予定額の減により約210百万円減少し、組合負担等見込額は、筑西広域市町村圏事務組合の地方債残高の減により約199百万円減少した。また、債務負担行為に基づく支出予定額は、土地区画整理組合の借入金償還費助成金の支出予定額の減により約171百万円の減となった。

将来負担額から差し引く充当可能財源においては、充当可能基金が、市税等の減収による取崩しに伴い約2百万円の減、充当可能特定歳入が、都市開発資金貸付金等残高の減に伴い約42百万円の減となったが、基準財政需要額算入見込額が公債費に係る算入見込額が増加したことに伴い約55百万円増加し、充当可能財源全体では前年比で約11百万円の増となった。

※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。